

令和2年度 学校自己評価システムシート (学校法人狭山ヶ丘学園 狭山ヶ丘高等学校)

目指す学校像	学力向上と希望の進路実現および部活動の充実発展を目指す。
--------	------------------------------

重点目標	1 大学合格実績の伸長 2 教科指導の徹底と学力向上 3 部活動の活性化 4 基本的生活習慣の構築
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	13名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	0名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (6月5日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 生徒全員の学力向上を目指し授業の充実は勿論、朝ゼミ、放課後ゼミを展開している。例年行っていた夏期講習は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止にした。新入試に向けた指導を進路ガイダンスなど様々な場で行った。生徒たちは、真面目に勉学に励むものの、志望大学の難易度を下げる傾向があることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 新入試にむけた各大学の動向を確認する。 補習、講習への参加人数の動向を見る。 模擬試験等の偏差値動向を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体指導やガイダンスの際、自己の可能性を信じ、上位校を目指す指導をする。 G-Suiteを導入し、休校期間中もオンラインで授業を展開した。学校再開後も、ゼミの代替などで活用した。 自学自習の確立を指導する。 ガイダンス等で、必要な情報を生徒に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 上位大学を目標とする生徒数 模擬試験等において実力が高まった生徒数 早い時期に目標大学を決め、その意志を持ち続けた生徒数 	<ul style="list-style-type: none"> GMARCHを中心に難関私立大学への合格実績という点では健闘したが、難関国立大学への合格者は例年よりも減少した。ゼミ再開後は、生徒はやる気をもってゼミ、補習に取り組んだ。 入試がはじまった後は、多くの生徒が最後まで粘り強く大学入試に向き合った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 将来に対する目的意識を早い時期に持たせ、より高い目標を持ち続けさせることの重要性を認識させる。難関国立大学への出願が可能となるように共通テストに対する指導を徹底すること。
2	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすく充実した授業を展開し、予習、復習を徹底させ基礎力の定着を図り、応用力の育成を目指している。 新入試に対応するため「思考力・判断力・表現力」の養成を強化している。 先生により授業展開、指導内容にやや差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容、特に分かりやすさと関心を引く度合いに着目。 小テストを使って理解度を見る。 質問をする、答える度数に着目。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を丁寧に行い、生徒の理解度を定期的に小テストを実施することで掌握する。 授業内での発問において、生徒が自ら考えるような教育活動を展開する。 教科会における連絡を密にとり、教員間の共通認識を形成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自学自習をするようになったかどうか。 生徒の授業への満足度が高まったかどうか。 生徒の実力が向上したかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒は集中して授業を受け、学習内容の理解度も向上した。 「表現力」の部分に課題が残った。具体的には論述問題には多少弱い傾向がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業を更に積極的に行い、教員同士の話し合いを通じて授業の質的向上を図る 定期考査における論述問題の出題数を増やすなど、生徒の表現力の養成を図る。
3	<ul style="list-style-type: none"> 部活動への加入状況は全学年共非常に高く、勉学と両立させるべく、前向きに努力している。入学時にIV類を設けたことで、野球部、サッカー部の強化が期待される。文化系部活動を活性化させることがこれからの課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 試合や発表会の結果 活動報告の度数 体育祭や文化祭等で見る活動内容 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動に全生徒が参加できるように呼び掛ける。 コロナ禍においても、短時間の練習で効果的に技術を向上させるような活動内容を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動への参加人数が増加したか。 活発に活動しているクラブが増えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動顧問会にて生徒の参加状況等を把握できた 野球においては県大会を制覇するなど、実績において大きな成果をおさめた。 クラブの試合報告や活動報告をした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 試合結果や活動報告等を広く紹介するなど、活動への意欲を更に高める工夫をする。 短時間で効果的な部活動の運営を更に模索する必要がある。
4	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣は概ね、確立されており、欠席、遅刻、早退は少ない。 挨拶がしっかりできる生徒も相当数いるが、十分ではない生徒の存在もある。 周囲の状況を弁えた行動がとれない生徒が若干いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の励行 弁えた行動がとれる。 校則を遵守する。 自転車の適切な乗車。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教員で常に生徒を見守る。 事前に十分指導、説得し、その上で、少ない校則を確実に守らせる。 担任のHR時の指導を確実に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 校則違反者がどの程度減ったか。 挨拶が交わされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 違反者の数が減った。 部活生の挨拶はしっかりできている。 時と場所を、弁えた行動がとれない生徒はいるがその数は少なくなった。 自転車を並列乗車する生徒が見受けられる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> HR時の担任指導を含め、あらゆる機会を活用し、あるべき生活の仕方を指導していきたい。

学 校 関 係 者 評 価
実施日 令和3年7月3日
学校関係者からの意見・要望・評価等 <ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンスの実施など、1学年から手厚い進路指導がなされている。 休校期間中のオンライン授業への対応は遅かったものの、開始後はスムーズに展開されていた。また、G-Suiteのホームルーム機能を用いた連絡が密に取れていてよかった。 授業が面白い 生徒の興味を引く工夫がなされている授業が展開されている。 概ね部活動は盛んで、文武両道を体現できている。 強化部以外の部活動の施設充実にも力を入れてもらいたい。 コロナ禍ではあったが、部活動の発表の場があれば良かったと感じた。 自転車の交通マナー指導だけではなく、歩いて帰る生徒の歩行者としてのマナー指導も必要ではないか。 校則については、もう少し生徒の自主性に任せる部分があってもいいのではないか。